地質ニュース618号，61－64頁，2006年2月
Chishitsu News no.618, p.61－64, February, 2006

春を見つけようという課題に短歌で表現させる試み

森尻　理恵[1)]・中井　睦美[2)]

1. きっかけ

校外学習で標本館や博物館を訪れる子どもたちが増えた．それ自体は良いことなのだが，物を見ないで一生懸命解説文を書き写しているだけの子ども達の姿がすごく気になった．多分学校へ戻ってからレポートを提出するためなのだろうが，もっと，物をちゃんと見せる工夫ができないものだろうかと考えるようになった．教育の専門家ではないので，頭の隅にひっかかっていただけであったが，たまたま短歌講座で，短歌の基礎は「1．しっかりものを見る．」「2．自分なりの発見をする．」「3．自分の言葉で表現する．」の3点であるという話を聞いて，これは理科教育に使えるのではないか，と閃いた．

さらに，新聞で，新設の都立の中高一貫校の白鴎高校付属中の入学試験で『思考力，発想力などを問う適性検査では，「秋に実る果物を一つ取り上げ，短歌で季節の様子を表現せよ」などの問題が出題され』という記事を見た．皆，考えることは同じだと思った．

そこで，大東文化大学で中井助教授の理科教育法を履修している大学生達に「春を見つけて短歌で表現する」「そのなかで互選」をせよという課題を出した．彼らは小学校教員を目指している．まずは先生の卵で試してみることにした．

2. 国語で習う短歌

小学校では6年生で，国語に短歌と俳句の単元があり，短歌に興味のある先生に当たらない限り，これが短歌と初めて遭遇する機会となる．ところがここでの学習の大きな目標は言葉のひびきを味わう，となっており，古典和歌の作品が多く引用されている．参考までに多く採用されている4社の教科書から，掲載されている作品を次に抜き出す．表記は教科書に従った．この中には複数社で引用されている作品もある．

春過ぎて夏きたるらし白たへの衣ほしたり天の香具山　持統天皇
ひまはりは金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ　前田夕暮
金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日のおかに　与謝野晶子
自転車のカゴからわんとはみ出してなにか嬉しいセロリの葉っぱ　俵万智
石走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりにけるかも　志貴皇子
秋来ぬと目にはさやかに見えねども風のおとにぞおどろかれぬる　藤原敏行
夏のかぜ山よりきたり三百の牧の若馬耳ふかれけり　与謝野晶子
白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ　若山牧水
みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる　斎藤茂吉
街をゆき子供の傍を通るとき蜜柑の香せり冬がまた来る　木下利玄
東の野にかぎろひの立つ見えてかへりみすれば月かたぶきぬ　柿本人麻呂
楽しみはまれに魚煮て児らみながうましうましといひて食ふ時　橘曙覧
あまの原ふりさけみればかすがなるみかさの山にいでし月かも　安倍仲麻呂
ねこの子のくびのすずがねかすかにもおとのみしたる夏草のうち　大隈言道
ひぐらしの一つがなけば二つなき山みな声となり

1）産総研 地質情報研究部門
2）大東文化大学 文学部教育学科

キーワード：小学生，短歌，理科教育，子どもと自然学会

て明けゆく　四賀光子
今日までに私がついた嘘なんてどうでもいいよというような海　俵万智
両親の四つの腕に七人の子を掻きいだき坂路登るも　伊藤左千夫
たはむれに母を背負いて
そのあまり軽きに泣きて
三歩あゆまず　石川啄木
田子の浦ゆうち出でて見ればま白にぞ富士の高嶺に雪は降りける　山部赤人
かすみたつ長き春日に子供らと手まりつきつつこの日暮らしつ　良寛

ここに出てきた作者18人のうち，万葉集から持統天皇，柿本人麻呂，山部赤人，志貴皇子，安倍仲麻呂，の5人，古今集から藤原敏行が1人，江戸時代は良寛，橘曙覧，大隈言道の3人，明治大正が石川啄木，伊藤左千夫，前田夕暮，与謝野晶子，木下利玄，若山牧水の6人，大正昭和から現代が，斎藤茂吉，四賀光子，俵万智の3人という内訳である．いずれも優れた作品であるのだが，理科教育へ応用することを考えれば，万葉集に詠われている自然を現代の都会っ子は，身近にイメージできないのではないかと少し心配である．たとえば「東の野にかぎろひの立つ見えてかへりみすれば月かたぶきぬ（柿本人麻呂）」という作品で，この「かぎろひ」は広辞苑によると日の出前に東の空に射し始める光のことを言うらしい．またこの歌は冬に詠まれた（中西　進「万葉集」など）．冬のよく晴れた日の日の出前に見られる最初の陽光と沈み行く月．これを現代っ子が想像できるだろうか．

現代短歌はどちらかというと調べの美しさよりも意味や表記に重きを置く作者が増えてきているので，言葉の響きを味わおうという学習目標には確かに古典がふさわしい．ただ，現代のポップスを聴いても言葉のリズムが昔とはだいぶ違う．ラップのリズムに年配者は日本語として抵抗があるかもしれないが，若者はいともたやすく乗っていける．現代の若い短歌作者は，自分達の世代のリズム感で作品を作るので，老若男女入り乱れて，現代短歌の世界はかなりにぎやかである．もちろん国語として古典は大変重要だが，理科への適用を，国語で習ってきたような古典和歌，近代短歌の経験だけではイメージするのは難しいかもしれない．おそらく，大学生の短歌に対するバックグラウンドはほぼゼロであると判断し，初めにサンプルとしていくつかの短歌大会で公開されている小学生の入選作品から，理科として面白い発見をしていると思うものを紹介した．大学生の作品も短歌としてどうか，ではなく，いかに，オリジナルな「春」を見つけてきたか，という方に評価のポイントを置いた．つまり，国語で習う短歌はここでは忘れましょう，これはあくまで理科ですから．という具合である．

3. 小学生の作品例

次に資料として配布した小学生の作品を一部紹介する．これは季節を見つけて作らせたものではないが，身近な発見が生き生きと描かれている．若山牧水全国こども短歌コンクール，鳥取県民文化祭，NHK全国短歌大会ジュニアの部の入選作品より選んだ．

ありさんがみればせんこうはなびでもうちあげはなびになるのかな　宮崎県　小1　杉安れむ
どじょうさんすなの中までもぐったね早くでてきてつかまえたいな　岐阜県　小1　筒井敬太
ななふしさんきのかくれんぼたのしそうわたしもほしいななふしのふく　宮崎県　小1　尾崎絢音
キラキラだたいようキラだ水キラだ水玉キララ水たまりキラ　宮崎県　小2　那須じゅり
せみがなく神社の中の保ぞん樹は枝をひろげたせみの学校　東京都　小4　毛利允信
雨の音いろんな音が聞こえるねいろんな色もあればいいのに　宮崎県　小5　高市彩華
梅ぼしを食う時ちょっと緊張し口に入れると「つ」の口になる　宮崎県　小5　鏡村竜一
ひさしぶり一年間は長かったやっぱりおいしい初物のナシ　宮崎県　小6　谷口貴哉
夕立ちで葉っぱや草に汗が出た体育あとのぼくといっしょに　岐阜県　小6　三島俊輝
図書室のまどから見えるくじらぐも私はずっとくじらを見てた　宮崎県　小6　石田莉穂
かりんの実そうじのときにみいつけた黄色で丸い一つのかりん　山形県　小6　塚形　恵
この空はパレットにない色があるきれいな空とみんなつぶやく　宮崎県　小6　合原稚紘
てんびん座一番星の重さはなんぼかなはかれるならば計ってみたい　鳥取県　小6　安田一樹

あおむしが二十日だいこん食べているわたしのぶんものこしておいて　宮崎県　小2　牧野恵依

いつの間にかメダカの赤ちゃん生まれてる三ミリ位なのにちゃんと泳げる　宮崎県　小4　中村祐佳

すべり台おしりに火がつく午後の二時足のうらならきっと50度　福岡県　小4　中村文柚

コスモスは種になったらとげの種チクチクしてて少しかわいい　宮崎県　小4　税田奈緒子

私はねキュウリの食べ方知ってるよはちみつつけるとメロンの味だ　東京都　小4　田中陽子

つくしんぼのきのきはえてとりごろだつくしの天ぷらにがいあじ　岐阜県　小4　桑田沙也加

口の中歯が二十四本と舌があるものを食べると音が聞こえる　千葉県　小3　塩原　礼

いずれも自分で発見したことを自分の言葉で表現している．これらを参考に大学生にも挑戦してもらった．

4. 大学生が見つけた都会の春と秋

埼玉県東松山市の大東文化大学構内で，学生達は自分の身近にある自然，すなわち都市近郊で見られる春を探してきた．60人弱の履修者の中で互選の結果上位に来たものを次に紹介する．繰り返すが，短歌としてどうかということは評価の対象になっていない．あくまでもどんな春を見つけてきたか，がポイントである．ただ，見つけやすいということで「つくし」「たんぽぽ」「桜」が多かった．作者名は伏せてある．

まずは互選で最高の12票の作品である．学生のつけたコメントを見ると春の気分が出ている，というのが多かった．

ぽかぽかの春の陽気に誘われて歩いて渡るさくらのじゅうたん

すやすやと眠っていた木々たちがおよおよと目覚めはじめた緑色に

つくしんぼ春の知らせに顔出して背中のばして気持ちよさそう

桜の木葉っぱの前に花が咲く不思議な花だな桜って

以下次点

たんぽぽの綿毛にふうっと吹きかけるいってらっしゃいふわふわわ

あたたかい春の日ざしに誘われて探検しようありの行列

夜明け時朝づゆついたタンポポに春のにおいと冬のおもかげ

ボサボサと黄緑色の髪の毛を早く切ってよ植木屋さん

通り雨僕らが見ればすぐ終わる雲から見ればずっと雨

桜の葉雨の涙で衣替え緑のドレス身につけた

お日様がニコニコいっぱい笑うからカエルもつくしも飛び出した

土手一面ふわふわ白いワタボウシ緑の絨毯水玉模様

桜の木ピンクのシャワーを降らせている同時にこぼれるみんなの笑顔

つくしんぼ踏まれたって負けないぞ今日も元気に笑ってる

森の奥歌の練習ウグイスが上手に鳴けないことのかわいさ

スギ花粉ひのき花粉とタッグ組み日本全土をくしゃみの嵐に

かくれんぼ落ち葉の下からひょっこりと顔出す竹の子見いつけた！

きのうまでシルバーだったマイカーが黄色に変身へーくっしょん

春風に虫や花たち騒ぎ出すきっとみんな春を待ってた

学生には短歌経験がほとんど無いところに，中途半端に短歌（＝和歌）のイメージがあったようで「自分なりの感性と言葉」という課題に苦労したようである．理科の視点で言えば，オーソドックスな春が上位を占めたのが少し残念だった．ただ，「花粉症」はネガティブではあるが新しい春のイメージとして受け入れられているようで面白かった．「新しい彼女」なんていうのもあった．現代っ子大学生らしい．互選の得点に関わらず，大学生が都会生活の中で見つけてきた新し

い春で面白かったものを次にあげる．
・スギ花粉，ヒノキ花粉，マスク
・食材（たけのこごはん，菜の花のおひたし）
・風，気温，光（街の色）
・人々の服装に明るい色が多くなった
・商店のディスプレイ（季節の先取り）
・パンジーなど花壇の植え替え
・天気予報の気温表示の色が変わる

次に「校内を歩いて秋を20件探し，1，2行の文章で表現せよ」という課題を後期に再び履修者に出したところ，春よりもバラエティーに富む秋を見つけてきた．もしかしたら，それなりに春は見つかっていたが，短歌で表現せよ，と言うところで月並みな春にしてしまっていたのかもしれない．
・空が高くなった
・自分の影が長くなった
・並木に銀杏が落ちていて臭い
・暖房器具の売出し
・スキーツアーのパンフレット
・生協に肉まん
・自動販売機で温かい飲み物，が出た
・おふろのお湯の温度設定を高くした
・サンマが安く食べられるようになった
・朝，窓が結露するようになった

身近な変化を感じられるようになったようである．しかし，もう一歩，「表現する」まで指導できるようになると良いのだが．

5. 短歌で表現することの良さ

別に見つけた季節を表現する方法は短歌に限ることではないのだが，なぜ，短歌がよいと思うのか具体例を挙げて述べることにする．

短歌は5・7・5・7・7を基本とする形式で，俳句よりも長いがかなり短い．しかし，俳句には無い7・7で自分の気持ちを込めることができる．歌人の三枝昂之氏は「短歌は人間の体温に最も近い詩形」と言っていたが，だからこそ，身近な自然観察と良い取り合わせになると考えている．

理科教育に戻って例をあげると，「毛虫の観察をしましょう」という課題があるとする．好きな子は問題ないが，嫌いな子は苦痛でしかない．見るのも嫌なのだから．しかし，「短歌を作りましょう」であれば，嫌いだという短歌を作ればよいのである．

ああいやだ見るのも嫌だ毛虫など

俳句ならばこれで終わってしまう（これを俳句といって良いかどうかは別として）が，ここで先生が一言，なぜ嫌いなのか，と聞いてあげたら

見た目はキモイし刺されれば痛い

という下句を短歌ならばつけることができる．短歌としての出来はさておき，理科的には，「毛虫に刺されたことがあって痛かった」，という重要な情報をこれは表現している．また，短歌だからこそ，嫌いだということを堂々と言ってしまえる．今，小学校で良い子であろうとすると「嫌だ」と言いにくいことが多い．そういう意味でも短歌は懐の深い表現方法であると考えている．

謝辞：小学生の短歌作品を読むに当たり，塔短歌会の選者花山多佳子氏にお世話になりました．謝意を表します．また課題に取り組んでくれた大東文化大学の学生諸氏にお礼申し上げます．

文　献

学校図書，みんなと学ぶ　小学校国語　6年上
教育出版，ひろがる言葉　小学国語6上
大阪書籍，小学国語6上
光村図書　国語　六（上）創造
若山牧水全国こども短歌コンクール入選作品
H12：http://bokusui.com/kodomo/index.html
H13-H16：http://www.bokusui.jp/contest/index.html
平成16年鳥取県民文化祭短歌作品集
平成15年度NHK全国短歌大会ジュニアの部入選作品集
中西進「万葉集」講談社文庫

MORIJIRI Rie and NAKAI Mutsumi（2006）：Educational use of Tanka - Find the changes of the seasons.

＜受付：2006年1月6日＞